

# 気をつけましょう

## 和牛

### ▼牛の流感には 気をつけましょう▲

流感は年によって大流行し、咽頭麻痺を継発しますと死亡率も高くなります。症状は体温が上昇し、食欲減退、便秘、下痢、血便などの胃腸障害や口内炎を起し、よだれを流し、涙が出ます。また呼吸困難やせきが出て、ひどいと起立できなくなり、更に進んで咽頭麻痺になると熱は平熱となり、食欲はありますが、与えるとのみくだけせなくて、口や鼻から逆流し、胃の運動がなくなります。

この病気には予防注射が一番よいのですが、もし発病したら、その症状に応じて治療せねばなりませんので早目に獣医師に診てもらうことです。

### ▼マタグサレを防ぎましょう▲

牛房の中に閉じこめておく牛や、削蹄を減多にしない牛に多く起ります。蹄間の皮膚が腐って、裂目ができ、跛行をおこし、蹄に熱をおび、球節からつなぎにかけて腫れてきます。放って置くと、歩行が困難になり、蹄がとれてしまうことがあります。

この「マタグサレ」は肥育牛などでは特に増体に関係があり、軽いものでも1週間位で、1ヵ月位の増体が一度に逆戻りするものです。

これを予防するには、ときどき川入れをして蹄の間に汚物が滞らぬようにすればよいですし、治療には蹄間をきれいに洗ってから、傷口にヨードチンキを塗布して木タールを浸したガーゼなどを詰めて繃帯をしておけばよろしい。

## 鶏

### 秋ピナを育成しよう

秋雛を生産する種鶏は産卵持続性が高いので雛も一般に能力のすぐれたものが多いし、又春について気候的によい時期ですが、次のことがらに特に注意しましょう。

○秋雛の育雛では、収容羽数にまらず「ゆとり」をもたせるようにしましょう。

春 100 羽収容するものでは、秋は 75~80 羽を収容するのがよろしい。

○9月の育雛では、日中の気温はまだ高く、夜間は涼風が流れて、昼夜の温度差も生ずるので、夜間就寝前の見まわりでは、夜中急に冷気を帯びて、密集することも考えられるので、特に温度の規正に注意しましょう。

○外気温と器内の温度差が少ないため、ややもすると換気不良におちいりやすいので、7~10 日間の給温は、換気をはかることを主として、開放式にして、むれることのないようにして「目ずれ」の防止に努めましょう。

○鶏痘予防接種を初生雛でしてあっても3週令位の時、もう一度接種しましょう。

## 乳牛

### ▼秋は乳牛が受胎しやすい▲

春から始まった種付が何回やっても夏中、受胎しない乳牛がいます。冬期間の飼育管理が悪く、栄養不足や鉱物質、ビタミン不足などで、乳牛の内生殖器が萎縮したのが不妊の原因となる場合があります。夏期に青草を十分食べさせた乳牛は、冬期間に起した欠点が除かれ、空胎がいつともなしに解消します。したがって秋には空胎牛が受胎しやすくなりますからこの時期にぜき空胎をなくしましょう。

### ▼2等乳の発生防止▲

7、8月の2等乳発生率は3.5~3.8%で最も多いですが、9月も2.34%位発生しています。涼しいからと安心しないよう前月同様注意しましょう。

### ▼過食、盗食防止▲

9、10月はよい気候のため乳牛は食欲を増してきます。9月下旬頃から県北では作物の収穫がはじまりますが、収納した穀物を乳牛に過食や盗食させないように注意しましょう。